

令和2年度 第2回 世田谷教育推進会議及び世田谷区総合教育会議の実施結果について

1 主旨

今日的な教育の諸課題を学校・家庭・地域及び教育委員会で共有し、協働して取り組むことを目的とした世田谷教育推進会議と、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置した、首長と教育委員会の協議の場である世田谷区総合教育会議を開催したので、報告する。

2 日時・会場

令和2年10月31日（土） 区役所第一庁舎5階 庁議室

① 13時00分～14時30分：世田谷教育推進会議

② 14時45分～16時00分：世田谷区総合教育会議

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場での区民傍聴は行わずビデオ会議ツール（Zoom）を使用してオンライン配信とした。

また、区の公式YouTubeにて11月6日（金）から動画配信を開始した。

3 参加者

世田谷教育推進会議 教育長、区立小学校PTA連合協議会の代表、区立中学校PTA連合協議会の代表、区立小学校の学校運営委員会の委員、区立中学校の学校運営委員会の委員、社会教育委員の代表、区立幼稚園の代表、区立小学校の代表、区立中学校の代表

世田谷区総合教育会議 区長、教育長、教育委員

4 テーマ

これまでの学び、これからの学び

～保護者や教員・子どもから捉えたICTによる新しい学び～

5 世田谷教育推進会議の主な内容

テーマをもとに、教育長からGIGAスクール構想における学習支援の報告を行い、続いて、ICTに関する保護者と地域の方の声を聴き、ICTを活用した授業風景及び児童・生徒、教員のインタビューを視聴し、参加者による意見交換を行った後に学識経験者の講評を受けた。主な意見は以下のとおり。

小学校の保護者

・世の中はICTの技術があふれているが、ICTを使いこなすことが必要であり、そのためには、何をやりたいのか目的をもつことが大事である。技術が日々変化していく中で、挑戦して、失敗しても、それを楽しく受け入れ、次のステップに活かしていくことが大事である。

地域の方

- ・保護者としては、学校は重要な場所であると思う。多様な子どもたちがいるので、子どもたちに学校の中で安心できる場所を提供して、子どもたちがチャレンジしていけるようにすることが大人の役目であり、ICTは有効なツールとなる。

中学校の保護者

- ・中学1年生の子どもは学校生活が始まらず、不安な様子であったが、担任と授業支援ソフトで自己紹介をしたことでうれしさと親近感を感じていた。学校休業中は不安な時期であったが、ICTの活用を心強く感じた。
- ・学校にいけない子どもなどの個性に応じて寄り添い、平等に教育を与えていく環境が必要である。

教育推進会議委員の意見交換

- ・動画配信ソフトなどを地域がつながっていくためのツールとして活用しながら、子どもたちの生きる力を育てていきたい。
- ・保護者としては、学校の先生に言いづらい事や聞きづらい事がタブレット端末を通して、連絡が取りやすくなることを期待している。
- ・教育がすべての子どもたちに行き渡るようにICTを推進してほしい。タブレット端末の家庭での使用方法、教員のICTの習熟度、ネットワーク環境の課題がある。
- ・ICTを上手く活用して、自分のものにしてほしい。また、ICTを地域の活動にも活用していくことが、学校と地域を結ぶためにも必要である。

学識経験者の講評

- ・子どもたちが1人1台端末を活用しても、効果が上がらない時期がある。教員に言われたことだけではなく、子どもたちが自発的に活用していくことで想定以上の効果が上がる。そのために、タブレット端末を授業以外でも、自由に活用させることが大事である。
- ・学校は、身体的や精神的に深い傷を負うことなく、安全に失敗できる場所でなければならない。タブレット端末を利用するにあたっては、トラブルが起こったら、子どもと学校、家庭も一緒になって解決していくことが大事である。
- ・ICT活用の効果を高め、学校・保護者・地域の方が協働していくことが重要であるので、そこでは地域の協力が大きな力になる。

6 世田谷区総合教育会議の主な内容

テーマをもとに、第1部の世田谷教育推進会議の内容を踏まえ、区長及び教育委員会による意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

区長

- ・区の財政は厳しい状況であるが、教育に投資を惜しんではならない。次の世代を担う子どもたちのため予算面からも支援していく。
- ・ICTは新たな時代の学びにおいて不可欠な要素であるが万能ではない。子どもたちが他者の意見等も取り入れながら冷静に判断できる能力を高め、成長するためのツールの一つとしてICTを活かしてほしい。
- ・ICT教育の実践にあたっては、総合教育会議でも課題を共有し、子どもたちの学びをさらに豊かなものにするための後押しをしていきたい。

- ・教育を取り巻くICT環境は凄まじい速さで進歩している。情報のアンテナを高く持ち、一人一人の子どもたちに寄り添った学びの改革をスタートさせていきたい。

教育委員

- ・ICT活用が進むなか、学校や家庭でタブレット端末をどのように活用し、学ぶことができるのか、保護者に対しても十分に説明する必要がある、学校・保護者・区が連携することが重要である。
- ・教員は今後、ICTを授業や、成績評価、家庭との連絡ツールなどで使うことに取り組まなければならない。そのためには教員のスキルアップの支援が必要である。
- ・ICTでできることとできないことを分けて、両方の分野をどうマッチングさせながら教育を進めていくかが大事である。新しい授業の形、学校の形を模索する時期が始まった。
- ・教員と子どもたちの双方向のやりとりの活性化により、教員にはこれまで以上に個々の子どもたちへ寄り添った対応をする能力が求められる。
- ・障害の有無や不登校か否かに関わらず、すべての子どもが多様な選択肢の中から学び方を選ぶことができるよう、個別最適化された学びを進めていくことが教育委員会の役割である。
- ・教員も子どもたちも、はじめは上手く使いこなすことができないかもしれないが、試行錯誤しながら継続して取り組んでいかなければならない。

教育長

- ・子どもたちが困難な状況に直面したとき、自ら考え、解決できるような能力を育むことが、社会で活躍できる人を育てるためには必要である。そのためにはICTを使うのか、友達や大人から聞くのかなど、目的に合った手段を選び、信憑性を判断する情報活用能力が必要となる。
- ・ICT活用の効果は、中長期的に現れてくるものであるとの認識を持ち、継続的に取り組んでいく。そのためには教員の意識改革が必要である。
- ・今後、タブレット端末が個別配付されるなかで故障などのトラブルは必ず起きる。地域や保護者からの支援の声もいただいている。エラーを受け入れながら様々な課題を乗り越えていく風土をつくりたい。